

歴史資源を活かした地域づくり

様式2



県南事務所 企画調査課
副主査 安藤 寿勝

～「境の明神」の取組～

地区名：白河市白坂地区

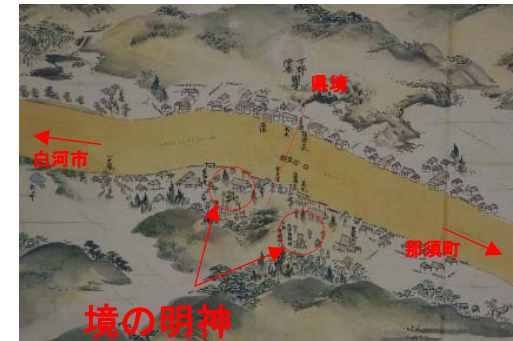
1. 境の明神の概要

位置

○旧奥州街道(現R294)の陸奥国(福島県白河市)と下野国(栃木県那須町)の境に位置。

境の明神の歴史

- 国境の神・和歌の神が祀られる
- 「白河の関」とあわせて「二所の関」とも呼ばれる。
- 俳人松尾芭蕉が「奥の細道紀行」におけるみちのく路の第一歩を踏み出した地点。
- 参勤交代(南部藩、仙台藩)の際の要所



白河市(陸奥)側



那須町(下野)側

2. 経緯

平成25年度 地域から観光資源として活用したいと相談
平成26年度 地域懇談会を設置、地域資源の掘り起こし
平成27年度 課題の抽出と地域づくりビジョンの作成
平成28年度 勉強会・ソフト対策の実施
平成29年度 現地調査・ハード対策実施の検討

平成30年以降 「おくのほそみちの風景地」(名勝地)
指定予定

3. 地域の課題

- ①歴史資源の有効活用
- ②情報発信の強化
- ③更なる魅力の掘り起こし
- ④安心・安全な空間づくり
- ⑤地域のにぎわい創出
- ⑥地域の担い手不足

4. 取組内容

課題① 「歴史資源の有効活用」

①-2【他県の地域づくり団体と連携した勉強会を実施】



歴史勉強会

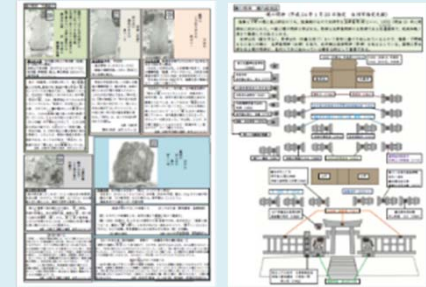


現地調査・説明会

①-2【境内マップを作成】



境内にある句碑



境内マップ

課題② 「情報発信の強化」

【パンフレット作成し、他の歴史文化拠点と連携】



課題④ 「安心・安全な空間づくり」

【側溝蓋掛けを実施し、歩道スペースを確保】



施工前



施工後

課題③ 「更なる魅力の掘り起こし」

【旧街道を活用】

当時の道路高さ

1580年(天正8年)

※豊臣 秀吉 奥州仕置

1876年(明治9年)

※明治天皇 東北行幸



5. むすびに

- ★境の明神は東北(みちのく)の玄関口の位置にあるため、関東から来た来訪者に対して、本地区から市内の観光地に誘導できる拠点にし、市内の交流人口の増加及び地域活性化に繋げていきたいと考えております。
- ★今後は、境の明神地区の「にぎわい創出」や「担い手不足」といった残った課題に対して、市と協力し合いながら地元を支援していきます。